

Problem Based Learning (PBL) について



教育随想

人間環境大学学長

八木 聡明 氏

最近「問題解決型の教育」が話題になってきている。このPBLは、一九六〇年代にカナダのMcMaster大学（医学部）で行われたのが最初であり、それ以降、医学教育の現場では日本も含め広く採用されるようになっていく。PBLは、small group learning (SGL) が基本である。理想的には五〜六名の学生が提示されたシナリオから問題を抽出して、それを自ら解決するためにいろいろな手段（書籍、インターネット、实地訪問等）を用いて勉強していくもので、それを支援する一〜二名のtutorがこれに加わる。tutorはあくまでも支援者であり、教えるという行動をとらない。Harvard大学（医学部）でも、PBLを教育に取り入れるべきかどうか議論され、一九八〇年代に、二年次にわたり旧来型授業と新しい方式の授業をそれぞれ五十名ずつの学生に行うという試みがなされた。その結果、長期的なoutcomeに差はなかったが、学生の積極性等でPBLに良い点がみられたことから（少



平成25年9月1日
9月号
 発行・編集
 岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
人間環境大学学長 八木 聡明氏	
この人に聞く	2
横浜国立大学 教育人間科学部 准教授 書写教育招聘講師 青山 浩之氏	
羅針盤	2
生活科・総合的な学習指導員 倉地 耕治	
ふれあい	3
上地小 犬塚 貴子	
特集	4
移り変わる小学校陸上競技大会	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
開校式（平成4年）	
この本を	8



なくとも比較して悪くないという点も含めて）、医学教育カリキュラムの大改革を行っている。

ここで、この教育方法のインフラについて考えてみたい。一学年だけを考えてみても、例えば百名の学生にSGLを適用すると、一グループを六名としても十七グループになる。従って、tutorは最低十七名が同時間帯に必要で、それぞれのグループが使用する参考書、パソコン等の整備された小教室が最低十七部屋確保されなければならない。カナダやアメリカでは、少なくとも医学教育担当の教員数は、日本に比べて何倍も多いという背景がある。教育にはお金（資金投入）が欠かせないことも銘記すべきである。アメリカでは、

教育資源に対する資金投入は日本とは全く比べものにならないくらい膨大である。

教育資源の一部であるtutorも、PBLのためのシナリオ作成、グループの進み具合、小人数とはいえ、それぞれの学生の個別対応等、従来型の授業より何倍もの時間とエネルギーが必要になる。教育者は熱意をもって学生の教育に当たらなければならず、これは教育の基本であることに間違いはない。しかし、先に述べたようなインフラ、即ち教育資源のない状況で、教育者の熱意という精神論によって全てが解決するように帰結させることは、最もしてはならないことである。

(やぎ としあき)

この人に聞く

青山浩之氏筆



人にやさしい文字を

横浜国立大学 教育人間科学部 准教授
書写教育招聘講師

青山 浩之 氏

母校である山中小学校を中心に、市内の小学校で、文字を書く指導とはどうあるべきかを示してくださいとされている方がいる。テレビや雑誌など数多くのメディアで取り上げられている『美文字王子』こと青山さんだ。小学校から通い始めた習字教室が、青山さんと書道との最初の出会いだった。

「どこの町にもあるような近所の習字教室でした。『文字をきれいに書く』ことももちろん言われましたが、それよりも、しつけの面を厳しく言われたのを覚えていますね。その教室を六年生まで続けて、コンクールで入賞させてもらったことがあります。努力したこと、継続したこと

が結果につながったうれしさが大きかったですね。」

その後、大学で書道を専攻し、ご自身の作品づくりを進めた青山さん。「学生時代に出会った教授や友人の書道に対する意識の高さには刺激を受けました。文字を通して表現するということの大切さを日々痛感していましたね。卒業後、現場での授業を拝見したり、自分自身も子供たちと触れ合ったりする中で、『文字を書く教育』のあり方について、取り違えが起こっているのを感じました。先生方が必死に『手本のよきな文字を書きなさい。半紙一枚を美しく仕上げなさい』と指導されている。子供たちもそれを信じて疑わない。毛筆の授業が普段の生活と切り離されてしまっている。書写の授業に関して指導法の構築をする必要性がある」と強く感じました。

では、青山さんの考える『文字を書く教育』とはどんなものなのでしょう。「国語科だけでなく、書いて伝える、表現することの全てを下支えする重要な教育だと思っています。子供たちが文字を書く学習をするとき、半紙の作品を書き上げるのは、通過点に過ぎないということを理解してほしいですね。最終的に、文字というのは、相手に伝える手段ですから。半紙での活動が、日常のノートの文字や、掲示物をつくる際の文字に生かすことが大切です。今、あらためて手で書くということが注目されて



いますが、デジタルでは表現できない温もりや書く人のパーソナリティが、感じられるからではないでしょうか。人前で文字を書くことは、思いの外、多いものです。『美文字』とは、単に『美しい字』ではなく、『相手が読みやすく、気持ちがいっかり伝わる字』だと思っています。子供たちには、まず書写の時間に、きちんと書くことの基本を身につけてほしい。その上で、場面に応じて、相手を意識した『人にやさしい文字』を書けるようになることが、文字を書く教育のゴールと考えてほしいと思います。」

書くことが楽しく、相手を意識した文字を書ける人に育ってほしい、そのために研究を続けていきたい。そう願う青山さんの書く文字からは、『やさしさ』がにじみ出ている。

氏名 あおやま ひろゆき
生年月日 昭和四十二年三月十三日
住所 神奈川県横浜市

心が動く授業

生活科・総合的な学習指導員

倉地 耕治



子供の数も減り、過疎の問題に直面している市内の小学校。中学年を担当するA先生は、「秋祭り」という町内の行事を通して学区の未来を考える総合的な学習の単元を構想した。「お祭り自慢をしよう」との投げ掛けに、伝え合いが始まる。「獅子をかぶって回る」「お菓子投げがある」「神事の後パーベキューをやるよ」と楽しい発表が続く。「おじいちゃんが祝詞をあげる」という発言を捉え、A先生は、「そのおじいちゃんのインタビューを流した。」「人が少なくなつて、しめ縄も一年おきにしかできない。将来が心配だ」という内容であった。A先生は「二十年后もお祭りは続いていると思うか」と投げ掛ける。やがてお祭りを担う子供たちに、過疎の問題を自分のこととして考えさせるためである。現状を分かっている子供たちは黙って



僕のせいかなあ

上地小 犬塚 貴子

A男は、普段、初めてやることや見通しがもてないことに対して不安な気持ちになり、泣き出すこともある子である。更に、虫は苦手で、家では小さなハエがいるだけで大騒ぎになる。ある日、そんなA男にアゲハの幼虫を見せた。露骨に嫌そうな顔をした。しかし、他の子供たちが、楽しそうに手に載せているのを見せ、「小さくてかわいいね。みんな手に載せているよ」と言うと、恐る恐るではあったが、何とか手の上に幼虫を載せることができた。A男が、初めてのことに果敢に挑戦し、できたことを大いに褒めた。

自分で見つけたモンシロチョウとアゲハの卵から、幼虫が出てきたときには、A男は大喜びであった。しかし、アゲハの幼虫は、すぐに死んでしまった。枯れかけたミカンの葉を手にして「僕が新しい葉っぱに替えなかつたからかな」とがっかりするA男に「毎日様子を見てあげるといいね」と声を掛けた。

それから、生き残ったモンシロチョウの幼虫や、エサとなるキャベツの葉の状態を気にして、毎日見ていたA男。それなのに、幼虫が、今度はコマユバチにやられてしまった。その姿を見て、A男は、「僕のせいかなあ」と悲しげな声で言ったのである。アゲハの幼虫が死んだときに私が掛けた言葉どおり、毎日何回も様子を見て、糞がたまると掃除をしたり、エサが枯れかけると替えたりと、一生懸命に世話をしていたA男である。昨日まで元気にキャベツを食べていた幼虫の変わり果てた姿を見て「僕のせい」と思ってしまったことに心が痛んだ。すぐに、「コマユバチという蜂が、幼虫のお腹に卵を産んだから、仕方ないんだよ」と説明し、「A男さんはとても大切にしていたよ」と話すと、少し安心したように、やっと笑顔になった。



今までのA男であれば、二度の残念な結果に、チョウを育てるのをあきらめていただろう。だが、「もう一回、育ててみる」と聞いてみると、A男は、すぐに「僕、やってみる」と言い切った。それからのA男は、「ちゃんとチョウになるかな」と心配しながらも、休み時間のたびに幼虫の様子を気にして、今まで以上に世話をしようになった。

何としても成功体験を味わってほしいと願いながら、A男の様子と彼の幼虫を見守った。そして、その願いが通じたのであろうか、三度目は、無事サナギとなり、アゲハとなった。そのアゲハが飛び立つ姿を見たA男は、とても満足そうな顔をしていた。

今も、教室で育てているアオスジアゲハやキアゲハの幼虫の様子をいちばん気にしているのは、A男である。「チョウになるといいね」と言いながら、毎日、様子を見続けている。

しまった。じつと考えてから少しずつ手が挙がる。「このままでは続かないと思う」「お祭りは何十年も続けないといけない」と、子供の思いも揺れる。学習ファイルを見返し、これまでの学びを振り返る。子供たちの目が真剣さを増した。「出て行った人が帰ってきて全員集まれるように、みんな仲良くする」という発言に、先生は「自分たちができることって何だろう」と問い返す。「僕たちが楽しく参加したり、おみこしで回ったりして、お祭りを支えていく」という力強い発言に、A先生も参観していた校長先生も思わず笑顔でうなずいた。

私たちが目指すESDは、未来を生きる人たちの公平感や平等感という新たな価値観を求めている。例示した授業には、過疎という現代社会が突き付ける課題を自分のことと捉え、「お祭りを将来の人たちに伝えたい」と願い、本気で追究する子供の姿があった。そして、その背景には、地域の課題を教材として掘り起こし、学区の将来を託す子供たちへ熱い思いを抱いて実践する先生の姿があった。

「探究」という学びの方法だけでは総合的な学習の時間が充実するのではない。そこに探究すべき内容が伴って初めて子供の心は動くのだ。



▲ 小学校陸上競技大会選手宣誓 昭和51年（第15回）岡崎公園グラウンド

本年度、十月五日に行われる小学校陸上競技大会（以下陸上大会）は、今回で第五十二回を迎える。この長い歴史ある陸上大会についての変遷をたどってみた。

陸上大会の始まりは、昭和三十五年の陸上競技記録会からである。しかし、正式には、その二年後に始まった小学校総合体育大会が第一回であり、陸上競技は、その大会の中に位置付けられていた。その後陸上競技は、昭和四十二年（第18回）に総合体育大会から独立し、今に続く大会となったのである。

会場は現在、県営岡崎グラウンドであるが、第十七回大会（昭和五十二年）までは、岡崎公園グラウンドで実施されていた。そして、入場の様子も今とは異なり、鼓笛隊の演奏に合わせて、学校ごとに校旗を持ち、トラックに沿って選手が行進をしていた。また会場の変更に伴い、リレー競技が、オープンコースからセパレートコースへと変わった。

この半世紀の間に、種目にも変化が見られる。六十mハードルが八十mハードルになり、低学年リレーは姿を消し、五年一〇〇mや女子一〇〇mが新たに加わった。

そして、平成十八年には、岡崎、額田の合併にともない、額田地区の小学校が加わった。現在では、市内全四十七校が参加する大規模な大会となった。

五十年の歴史の中で様々な変容が見られるが、練習に励む児童と、それを支える教師たちの姿勢や熱意は、今も昔も変わらない。最高記録は、昨年度も更新された。これからも様々な種目で新記録が誕生することであろう。

昨年のロンドンオリンピックには、岡崎から中村明彦選手や山本聖途選手たちが出場した。今後、世界や日本ですますます活躍する選手が、この陸上大会から育つことを願っている。

競技種目と最高記録の変遷

昭和45年時の最高記録（第9回大会時）

種目	男子 記録	年度	女子 記録	年度
60mH	9"3	S 45	10"1	S 40
100m	12"9	S 36	13"7	S 40
1000m	3' 10"1	S 44		
低400mR	1' 01"5	S 44	1' 03"0	S 44
高400mR	55"9	S 44	58"2	S 44
走幅跳	4m85	S 43	4m56	S 43
走高跳	1m40	S 45	1m28	S 40
ボール投	61m70	S 42	52m05	S 45

平成24年時の最高記録（第51回大会時）

種目	男子 記録	年度	女子 記録	年度
80mH	12"7	H 20	13"5	H 22
100m	12"5	H 8	13"5	S 54
1000m	2' 56"2	H 5	3' 13"8	H 24
5年100m	12"9	H 1	13"8	H 1
400mR	53"0	H 2	55"7	S 57
走幅跳	5m15	S 61	4m60	S 60
走高跳	1m48	S 58	1m46	H 7
ボール投	80m73	H 3	59m70	S 61

大会の歴史

昭和35 小学校陸上競技記録会が始まる。
 昭和37（1回）第1回小学校総合体育大会を開催する。
 昭和42（6回）小学校陸上競技大会が独立して行われる。
 昭和54（18回）会場が岡崎公園グラウンドから県営岡崎グラウンドへ変更される。（リレー競技がオープンコースからセパレートコースへ）
 昭和58（22回）女子1000m競技が種目に加わる。
 昭和61（25回）60mハードルが80mハードルに変更される。
 平成4（31回）日曜日開催だったのが土曜日開催へと変更される。
 平成18（45回）額田地区の小学校が加わり参加校が増える。



▲ オープンコースでのリレー競技
昭和51年（第15回）岡崎公園グラウンド



▲ セパレートコースでのリレー競技
昭和54年（第18回）県営岡崎グラウンド

開会式の変遷



▲ 鼓笛隊に合わせた入場行進
昭和53年（第17回）岡崎公園グラウンド
鼓笛隊の演奏に合わせてプラカード、旗手、選手の順に行進をする。



▲ 会場を変更して初めての入場行進
昭和54年（第18回）県営岡崎グラウンド
この年から、会場が県営岡崎グラウンドとなった。



▲ 現在の開会式の様子
平成23年（第50回）県営岡崎グラウンド
入場行進は行わず、学校のプラカードを持った児童の後ろに選手が並ぶ。

優勝者にインタビュー

鈴木 金利選手（現在：井田小学校教諭）

昭和43年（第7回大会）：根石小6年生
 種目：走幅跳
 記録：4m85cm 優勝（当時の新記録）

練習では4mを超える記録は出していましたが、本番で4m80cmを超える記録が出せたので、とても驚いたことを覚えています。新記録で優勝したことで、将来はオリンピックに出場したいと思っていました。

片岡 僚子選手（現在：甲山中1年生）

平成24年（第51回大会）：根石小6年生
 種目：ボール投
 記録：58m01cm 優勝

大会で自己ベスト記録が出て、さらに優勝できたのでうれしかったです。また、大会を通して他の学校の子と友達になれたこともよかったです。優勝したことで、自信をもって今もソフトボール部で活動しています。

競技に励む児童たち



▲ ボール投 昭和51年（第15回）



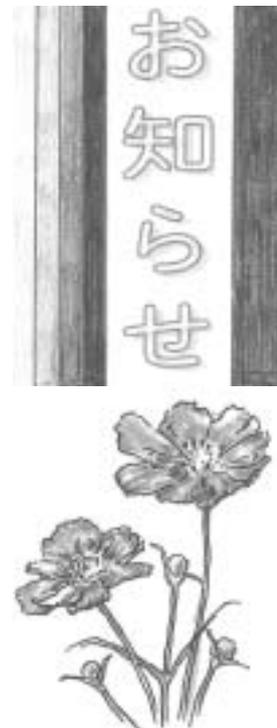
▲ 走高跳 昭和53年（第17回）



▲ 1000m 平成23年（第50回）



▲ 80mH 平成24年（第51回）



● 教育最新情報

○ 授業力・教師力アップセミナー【基礎編】

ナール(基礎編)
理科(7/31)

子供の追探究意欲を高める授業の進め方について研修した。生理学研究所柿木隆介教授の脳科学の講演後、中学年、高学年、中学校の三部会に分かれ、科学の楽しさを味わう実験を行った。先生方の「おおっ」という驚きの声が、二学期の理科室での子供の声に変わるようにしていきたい。



◆ 図工・美術(7/31)

愛知教育大学名誉教授・藤江充先生を講師に、鑑賞指導のあり方と子供の絵の見方について研修した。

カード型鑑賞教材の制作や活用方法について、体験を通して学ぶことができた。また、具体的な事例を基に、子供の発達段階に伴って変化する絵画表現の特徴を知ることができ、子供の絵を見る眼を高めることができた。



◆ 道徳(7/31)

大本満子教諭(根石小)による模擬授業、大橋喜代美教諭(豊富小)による情報モラル指導についての講義を行った。グループ協議では、道徳の授業について、活発な意見交換がなされた。

参加者からは、「実践的な内容が多く、授業をする上で大いに参考になった」との声が聞かれた。



● 表彰

◆ ジュニアオリンピックカップ

全国中学生カヌー大会

男子カナディアン二人乗り
二位 新香山中
森 優樹 磯谷混希

女子カヤック二人乗り
三位 新香山中
宮嶋里沙 今村絢音

女子カヤック四人乗り

優勝 新香山中

宮嶋里沙 今村絢音
原田美和 大蔵麻笑

◆ 第40回らくのうこどもギヤラリー
特選 豊富小三年 清水胡遥

◆ 第9回プリントコミュニケーション
ひろば(全国)
最優秀賞・理想教育財団賞

三島小教諭 浅井優子

◆ 第20回愛知県中学校カヌー大会
男女総合優勝 新香山中

女子総合優勝 新香山中
男子総合二位 新香山中

女子カヤック一人乗り
優勝 新香山中 大蔵麻笑

女子カヤック二人乗り
優勝 新香山中 大蔵麻笑

原田美和 大蔵麻笑

女子カヤック四人乗り
優勝 新香山中 今村絢音

宮嶋里沙 今村絢音
原田美和 大蔵麻笑

◆ 第59回全日本中学校通信陸上競技大会愛知県大会
男子走幅跳
優勝 翔南中三年 大久保光祐

男子砲丸投
優勝 矢作中三年 白藤聖陽

◆ 第35回愛知県中学生相撲大会
個人の部
優勝 葵中三年 中村恭輔

準優勝 矢作中三年 白藤聖陽

※二名とも愛知県の選抜選手に選出

◆ 愛知県女子剣道段別選手権
中学初段の部
優勝 矢作中三年 室屋悠望香

◆ 第27回愛知県小学生相撲選手権
六年生の部
優勝 竜美小六年 上条深能

※全国大会出場決定者(個人)
陸上競技
男子三年一〇〇M 浪崎高志

男子四〇〇M 竜南中三年 西田悠人

男子一〇MH 北 中三年 藤嶋一輝

男子走高跳 六美北中三年 中西 潤

矢作中三年 久保快斗

葵 中三年 青砥祐太

男子走幅跳 翔南中三年 大久保光祐

男子砲丸投 矢作中三年 白藤聖陽

女子八〇〇M 常磐中二年 宇野佑紀

女子走高跳 城北中三年 浅井さくら

美川中三年 原 侑子

女子走幅跳 竜南中二年 軒村香穂

水泳競技
男子二〇〇M個人メドレー
男子四〇〇M個人メドレー

城北中二年 中濱亮太

相撲
葵 中三年 中村恭輔

第66回岡崎市中学校市長杯総合体育大会・岡崎幸田支所予選会

Table with 5 columns: 種目, 性, 優勝, 第2位, 第3位. Lists winners for various sports like 陸上競技, バスケットボール, etc.

第66回岡崎市中学校市長杯総合体育大会の最終結果

Table with 6 columns: 種目, 1位, 2位, 3位, 4位, 5位, 6位. Shows final rankings for 男子総合, 女子総合, 男女総合.

個人競技 (1位のみ)

Table with 5 columns: 種目, 男子, 学校, 女子, 学校. Lists individual winners and their schools for 弓道, ソフトテニス, 卓球, 剣道.

陸上競技

Large table with 5 columns: 性, 種目, 氏名, 学校, 記録. Lists track and field events and winners for both male and female students.

水泳競技

Table with 3 columns: 種目, 男子, 女子. Lists swimming events and winners for both male and female students.

記録欄の「新」は、新記録の意味

柔道

Table with 4 columns: 性, 階級・部門, 氏名, 学校. Lists judo events and winners for both male and female students.

新体操

Table with 4 columns: 種目, 個人総合, クラブ, リボン. Lists rhythmic gymnastics events and winners.

記録欄の「新」は、新記録の意味

平成25年度岡崎市小学校体育大会

Table with 5 columns: 種目, 性, 優勝, 第2位, 第3位. Lists winners for elementary school sports like ソフトボール, バレーボール, etc.

Table with 5 columns: 種目, 性, 優勝, 第2位, 第3位. Lists winners for elementary school swimming events like サッカー, 水泳.

水泳競技 (個人・1位のみ)

【南ブロック】三島小プール

Table with 3 columns: 種目, 男子, 女子. Lists swimming winners for the Sanjima pool.

【北ブロック】井田小プール

Table with 3 columns: 種目, 男子, 女子. Lists swimming winners for the Iwata pool.

記録欄の「新」は、新記録の意味

・カ
ツ
ト
矢作北中
中山
広見

開校式 (平成4年)

写真提供：六ツ美北中学校

六ツ美中学校のマンモス化に伴い、市内十八番目の中学校として、六ツ美北中学校が平成四年四月に開校した。写真は開校式の様子である。

一・二年生は、学生服とセーラー服、一年生は私服でこの日を迎えた。まさにゼロからのスタートだった。「六ツ美北中学校の新しい伝統を創ろう」を合言葉に、三年生を中心として学校づくりを進めた。生徒会による新しい制服のアンケート調査、生活のきまりの確認、各行事の進め方の検討を重ねた。その後、同年九月一日より市内で初めて、ブレザー型の制服を採用し、新制服での登校が始まった。

それぞれの学校の歴史は、生徒と教師の手によって、一つ一つ刻まれてきたものである。



新記録、自己ベストを目指し、日々努力を続ける子供たち。小学校陸上競技大会は、五十二回目を迎える。長い歴史の中で、出場した選手が親となり、または教師となって子供たちを支援する姿がある。この大会にかける思いは、リレーのバトンのように、これからも未来へつながっていくだろう。

シ オ ス ア

スイカにかぶりつき、麦わら帽子で虫かごを持って過ごしていた夏休みも終わった。子供たちがそれぞれの夏の思い出を胸に、学校に戻ってきた。これまで静まり返っていた教室に、元気な声の響きが戻る。

さあ、二学期のスタート。一回り成長した子供たちと共に、気持ちも新たに頑張っていこう。

同じ筆記具で同じように書いたとしても、その文字は一人一人違ったものになる。書かれた文字から人となりが見えてくる。そんなアイデンティティをもった文字だからこそ、人にやさしく美しい文字を書きたい、子供にも書かせてやりたいと思う。その道のりはなかなか長く、険しいのだけれど。

青空にアキアカネが舞い、風に揺れる稲穂はきらきらと金色に輝く。まるで一枚の絵画を見ているような美しさだ。残暑はまだ厳しいが、鮮やかな秋は、すぐそこまで来ている。



*細水保宏の算数授業のつくり方 細水 保宏
東洋館出版社 ￥1,575

この一文
授業で大切なことは、意地でも教師は言わない。一番大切なものは、子どもから引き出す。

理論と実践を融合することで、よい授業が創造される。首都圏の附属小学校の教壇に長年にわたり立ち、年間数十回の公開授業から統計的に打ち立てられた著者の理論には説得力がある。

「前に出てきてしゃべらせたら、聞いている子どもにうなずいて反応させる」「だってこうだもん、という論理の言葉を子どもから引き出す」等、どの教科にも役立つ指導の要所がわかる本である。

*「教えて考えさせる授業」の挑戦 市川 伸一
明治図書 ￥2,205

*言語活動は授業をどう変えるか 北 俊夫
文溪堂 ￥998

*雑談力が上がる話し方 齋藤 孝
ダイヤモンド社 ￥1,500

男川小 蜂須賀 渉